IV 外食·惣菜

- 1 牛肉の仕入実態
 - (1)牛肉の仕入先
 - (2) 牛肉の仕入割合
 - (3) 牛肉の仕入形態
 - (4) 牛肉の仕入時の整形状態
 - (5) 牛肉の仕入価格の決め方
 - (6) 牛肉の仕入価格決定の際の参考指標
 - (7) 牛肉の仕入価格の適用期間
- 2 豚肉の仕入実態
 - (1)豚肉の仕入先
 - (2)豚肉の仕入割合
 - (3) 豚肉の仕入形態
 - (4) 豚肉の仕入時の整形状態
 - (5) 豚肉の仕入価格の決め方
 - (6) 豚肉の仕入価格決定の際の参考指標
 - (7) 豚肉の仕入価格の適用期間
- 3 外食・惣菜における食肉の需要見通し等
 - (1)外食・給食及び惣菜・弁当における自社の食肉需要見通し(今後5年間)
 - (2)国内の食肉需要見通し(今後5年間)
 - (3)食肉の調達上の問題点

1 牛肉の仕入実態

(1) 牛肉の仕入先

外食・給食及び惣菜・弁当の国産牛肉、輸入牛肉の仕入先は「中小食肉卸」が多く、次いで「大 手食肉卸」となっている。

□ 国産牛肉

外食・給食における和牛の仕入先は「中小食肉卸(56.1%)」が6割近く占め、次いで「大手食肉卸(33.2%)」が多い。和牛の需要者は焼肉店やディナーレストランが主体であり、他の業態では使用量が少ない状況である。また、交雑牛、乳牛の使用量はきわめて少なく、用途も限定的である。

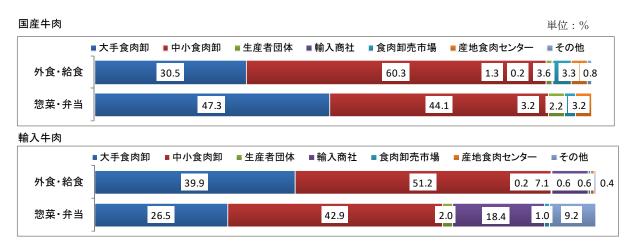
惣菜・弁当は和牛の使用量はきわめて少なく、用途も限定的である。

□ 輸入牛肉

外食・給食における輸入牛肉の仕入先は「中小食肉卸(51.2%)」が多く、次いで「大手食肉卸(39.9%)」、「輸入商社(7.1%)」が多くなっている。外食チェーンや焼肉チェーンは「大手食肉卸」が多く、焼肉店や飲食店では「中小食肉卸」が多くなる傾向にある。

惣菜・弁当は「中小食肉卸(42.9%)」が多く、次いで「大手食肉卸(26.5%)」、「輸入商社(18.4%)」 となっている。

図 4-1 牛肉の仕入先



注: 仕入数量の多い順に1位が3点、2位が2点、3位が1点として集計した。

表 4-1 牛肉の仕入先

	回答数	計	大手 食肉卸	中小食肉卸	生産者団体	輸入 商社	食肉卸売市場	産地食肉センター	その他
	社	%	%	%	%	%	%	%	%
国産牛肉 計	106	100.0	32.7	58.2	1.5	0.1	3.4	3.3	0.7
外食·給食	94	100.0	30.5	60.3	1.3	0.2	3.6	3.3	0.8
惣菜·弁当	12	100.0	47.3	44.1	3.2	0.0	2.2	3.2	0.0
和牛	101	100.0	33.2	56.1	2.0	0.3	3.3	3.8	1.3
外食·給食	92	100.0	32.1	56.6	2.3	0.3	3.4	3.9	1.4
惣菜·弁当	9	100.0	43.2	51.4	0.0	0.0	2.7	2.7	0.0
交雑牛	62	100.0	32.2	59.1	1.3	0.0	4.3	3.0	0.0
外食·給食	53	100.0	28.9	63.5	0.0	0.0	4.6	3.0	0.0
惣菜•弁当	9	100.0	51.5	33.3	9.1	0.0	3.0	3.0	0.0
乳牛	29	100.0	32.0	64.1	0.0	0.0	1.9	1.9	0.0
外食·給食	23	100.0	27.5	68.8	0.0	0.0	2.5	1.3	0.0
惣菜·弁当	6	100.0	47.8	47.8	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0
輸入牛肉 計	107	100.0	37.7	49.8	0.5	8.9	0.7	0.5	1.8
外食·給食	89	100.0	39.9	51.2	0.2	7.1	0.6	0.6	0.4
惣菜·弁当	18	100.0	26.5	42.9	2.0	18.4	1.0	0.0	9.2
輸入牛肉チルド	79	100.0	40.8	46.7	0.3	9.2	1.0	1.0	1.0
外食·給食	71	100.0	41.9	47.8	0.4	7.7	1.1	1.1	0.0
惣菜•弁当	8	100.0	32.4	38.2	0.0	20.6	0.0	0.0	8.8
輸入牛肉フローズン	80	100.0	34.6	53.0	0.7	8.7	0.3	0.0	2.7
外食·給食	64	100.0	37.6	55.1	0.0	6.4	0.0	0.0	0.9
惣菜•弁当	16	100.0	23.4	45.3	3.1	17.2	1.6	0.0	9.4

注: 仕入数量の多い順に1位が3点、2位が2点、3位が1点として集計した。

(2) 牛肉の仕入割合

前回(5年前)と比べて、回答社数は133社と17社増加している。内訳を見ると、外食・給食が12社、惣菜弁当が5社増加している。1社あたりの仕入量はほぼ同量となっている。

牛肉の仕入割合は、外食・給食と惣菜・弁当では輸入のチルド・フローズンで大きく異なっている。国産牛肉の割合は外食・給食、惣菜・弁当ともに1割強である。

また、前回(5 年前)と比べて、国産牛肉を見ると、外食・給食は減少させ、惣菜・弁当は増加させている。

□ 外食·給食

外食・給食では「輸入チルド (60.7%)」、「輸入フローズン (26.5%)」と輸入牛肉で 9 割弱を占めている。外食チェーンや給食事業者は輸入牛肉が主体となっている。国産牛肉は「和牛 (9.8%)」が約1割で、「交雑牛 (2.2%)」、「乳牛 (0.9%)」はきわめて少ない。和牛は焼肉店や客単価の高いディナーレストランなどで利用されていると推察される。

□ 惣菜・弁当

惣菜・弁当では「輸入フローズン (75.7%)」が全体の 8 割近くを占めている。国産牛肉は少ない。

図 4-2 牛肉の仕入割合

単位:%



表 4-2 牛肉の仕入割合

		回答数	一社当たり 仕入量	計	和牛	交雑牛	乳牛	輸入チルド	輸入フロースン
		社	トン	%	%	%	%	%	%
牛	肉	133	157.1	100.0	7.1	4.0	2.6	37.2	49.2
	外食·給食	111	101.3	100.0	9.8	2.2	0.9	60.7	26.5
	惣菜•弁当	22	438.3	100.0	3.9	6.1	4.7	9.7	75.7

(3) 牛肉の仕入形態

外食・給食や惣菜・弁当における牛肉の仕入形態は、国産牛肉、輸入牛肉ともに総じて「部分肉パーツ」が多い。惣菜・弁当では「精肉」の仕入が多いことが特徴である。

□ 国産牛肉

国産牛肉についてみると、外食・給食では「部分肉パーツ」の回答数が 6 割を超えており、次いで「部分肉フルセット(15.7%)」、「精肉(13.2%)」となっている。惣菜・弁当では「精肉(52.5%)」、「部分肉パーツ(43.8%)」とこれら 2 つで 9 割を超えている。

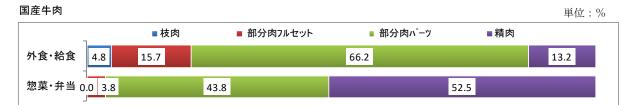
また、前回調査と比べ、精肉の割合が外食・給食では減少し、惣菜・弁当では増加している。

□ 輸入牛肉

輸入牛肉の仕入形態は原産国からの流通形態が部分肉であり、「部分肉パーツ」が主体となっている。外食・給食では「部分肉パーツ(82.3%)」が8割を超えている。惣菜・弁当では「部分肉パーツ(57.1%)」、「精肉(42.9%)」の順となっており、「精肉」の仕入れが多いことが特徴である。

また、前回(5 年前)と比べて、精肉の割合が、国産牛肉とは逆に、外食・給食では増加し、 惣菜・弁当では減少している。

図 4-3 牛肉の仕入形態



輸入牛肉



注: 仕入数量の多い順に1位が3点、2位が2点、3位が1点として集計した。

表 4-3 牛肉の仕入形態

	回答数	計	枝肉	部分肉フルセット	部分肉パーツ	精肉
	社	%	%	%	%	%
国産牛肉 計	106	100.0	4.2	14.2	63.4	18.2
外食・給食	94	100.0	4.8	15.7	66.2	13.2
惣菜•弁当	12	100.0	0.0	3.8	43.8	52.5
和牛	100	100.0	6.3	18.1	60.1	15.5
外食·給食	91	100.0	6.8	18.8	62.1	12.3
惣菜•弁当	9	100.0	0.0	10.0	36.7	53.3
交雑牛	62	100.0	1.4	9.5	67.8	21.3
外食・給食	52	100.0	1.7	11.2	69.8	17.3
惣菜•弁当	10	100.0	0.0	0.0	56.3	43.8
乳牛	29	100.0	0.0	4.3	70.2	25.5
外食·給食	23	100.0	0.0	6.9	93.1	0.0
惣菜•弁当	6	100.0	0.0	0.0	33.3	66.7
輸入牛肉 計	108	100.0	0.0	0.0	75.7	24.3
外食·給食	89	100.0	0.0	0.0	82.3	17.7
惣菜•弁当	19	100.0	0.0	0.0	57.1	42.9
輸入チルド	79	100.0	0.0	0.0	77.1	22.9
外食·給食	70	100.0	0.0	0.0	81.1	18.9
惣菜•弁当	9	100.0	0.0	0.0	48.4	51.6
輸入フローズン	81	100.0	0.0	0.0	70.6	29.4
外食·給食	64	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
惣菜•弁当	17	100.0	0.0	0.0	62.3	37.7

注: 仕入数量の多い順に1位が3点、2位が2点、3位が1点として集計した。

(4) 牛肉の仕入時の整形状態

国産牛肉の仕入時の整形状態は、一般的に「ノーマル規格」と「小割規格」があり、うち、「小割規格」は需要者の規格が多いことから、部位数や整形の仕様が多様となっている。また、前回 (5 年前)と比べて、「小割規格」の割合が増加していることから見て、近年、需要者の部分肉から 精肉への簡便化志向等がうかがえる。

□ 国産牛肉

国産牛肉の仕入時の整形状態は、外食・給食では「小割規格(61.2%)」が「ノーマル規格(34.0%)」を上回っている。 惣菜・弁当も同様に、「小割規格」が「ノーマル規格」を上回っている。

□ 輸入牛肉

輸入牛肉の仕入時の整形状態は外食・給食、惣菜・弁当とも、「パッカー規格」が 60%超と多い。ただし、「小割規格(自社等の規格)」には仕様にもとづき、整形加工が行われているものが含まれている。

図 4-4 牛肉の仕入時の整形状態





表 4-4 牛肉の仕入時の整形状態

		回答数	計	ノーマル規格	小割規格	その他
		社	%	%	%	%
国産	牛肉 計	106	100.0	32.7	61.2	6.1
	外食·給食	95	100.0	34.0	61.2	4.8
	惣菜•弁当	11	100.0	22.2	61.1	16.7
和台	<u>. </u>	100	100.0	37.0	58.0	5.0
	外食·給食	92	100.0	38.0	57.6	4.3
	惣菜•弁当	8	100.0	25.0	62.5	12.5
その)他国産牛肉	65	100.0	26.2	66.2	7.7
	外食·給食	55	100.0	27.3	67.3	5.5
	惣菜•弁当	10	100.0	20.0	60.0	20.0
		回答数	計	小割規格 (パッカー規格)	小割規格 (自社等 の規格)	その他
		社	%	%	%	%
輸入	牛肉	94	100.0	61.7	31.9	6.4
	外食·給食	78	100.0	61.5	30.8	7.7
	惣菜•弁当	16	100.0	62.5	37.5	0.0

(5) 牛肉の仕入価格の決め方

牛肉の仕入価格は、仕入先からの見積もりをベースとして、相対交渉で決められることが多くなっている。

□ 国産牛肉

国産牛肉の仕入価格の決定方法は、「相対交渉(47.7%)」が「見積合わせ(47.7%)」と同水準で、「入札(4.7%)」は少ない。外食・給食は「見積合わせ(49.0%)」、惣菜・弁当は「相対交渉(54.5%)」がそれぞれ最も多くなっている。

□ 輸入牛肉

輸入牛肉の仕入価格は一般的に原産国パッカーのオファーがベースとなっている。輸入牛肉の 仕入価格の決定方法は、「見積合わせ (66.4%)」、「相対交渉 (29.0%)」の順となっている。外食・ 給食、惣菜・弁当ともに同様な傾向となっている。

図 4-5 牛肉の仕入価格の決め方







表 4-5 牛肉の仕入価格の決め方

		回答数	計	入札	見積合わせ	相対交渉
		社	%	%	%	%
国	産牛肉	107	100.0	4.7	47.7	47.7
	外食·給食	96	100.0	4.2	49.0	46.9
	惣菜•弁当	11	100.0	9.1	36.4	54.5
輸	入牛肉	107	100.0	4.7	66.4	29.0
	外食·給食	90	100.0	3.3	66.7	30.0
	惣菜•弁当	17	100.0	11.8	64.7	23.5

(6) 牛肉の仕入価格決定の際の参考指標

□ 国産牛肉

国産牛肉の仕入形態は、部分肉主体となっているが、その価格交渉の際の参考指標については「枝肉取引価格(37.4%)」が最も多く、次いで「JMTC 部分肉価格(23.4%)」となっている。 外食・給食は「枝肉取引価格(40.6%)」が最も多いが、惣菜・弁当は「食肉業界紙(27.3%)」 が最も多くなっている。

□ 輸入牛肉

輸入牛肉は、「JMTC 部分肉価格(33.6%)」が最も多く、「コスト積み上げ(28.0%)」、「食肉仲間相場(19.6%)」の順となっている。外食・給食と惣菜・弁当はいずれも「JMTC 部分肉価格」がそれぞれ 33.3%、35.3%と最も多くなっている。

また、前回(5年前)と比べて、「JMTC部分肉価格」の割合が増加している。特に、外食・給食の回答社数が60社から90社に増加している中で、18%から33%への増加が目立っている。

図 4-6 牛肉の仕入価格決定の際の参考指標

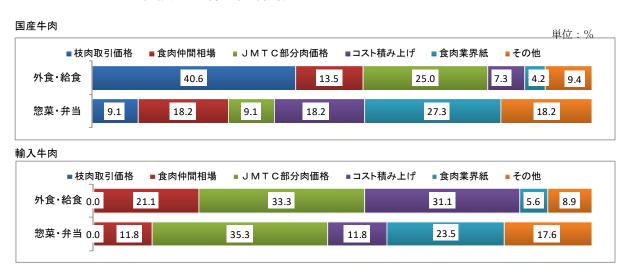


表 4-6 牛肉の仕入価格決定の際の参考指標

		回答数	計	枝肉取引 価格	食肉仲間 相場	JMTC 部分肉 価格	コスト積み 上げ	食肉 業界紙	その他
		社	%	%	%	%	%	%	%
国産牛	· 肉	107	100.0	37.4	14.0	23.4	8.4	6.5	10.3
	外食·給食	96	100.0	40.6	13.5	25.0	7.3	4.2	9.4
	惣菜•弁当	11	100.0	9.1	18.2	9.1	18.2	27.3	18.2
輸入牛	·肉	107	100.0	0.0	19.6	33.6	28.0	8.4	10.3
	外食·給食	90	100.0	0.0	21.1	33.3	31.1	5.6	8.9
	惣菜•弁当	17	100.0	0.0	11.8	35.3	11.8	23.5	17.6

(7) 牛肉の仕入価格の適用期間

外食・給食及び惣菜・弁当の国産牛肉、輸入牛肉の価格の適用期間は、小売業(スーパー・専門小売店)と比べて長くなる傾向にあり、仕入先である食肉卸や輸入商社が価格変動リスクを負っているとみることができる。また、前回(5年前)と比べて、国産牛肉・輸入牛肉とも適用期間は顕著に長期化している。

□ 国産牛肉

国産牛肉の仕入価格の適用期間は、「月(28.0%)」、「年間(16.8%)」、「日(14.0%)」、「半年(10.3%)」の順となっているが、総じて小売業と比べて適用期間が長くなる傾向にある。惣菜・弁当では「月(54.5%)」が最も多くなっている。なお、「日」にはその都度も含まれている。また、「年間」は一つの価格で年間供給するものではなく、一定の変動ルールを取り入れた契約も含まれている。

□ 輸入牛肉

輸入牛肉は、「月(37.4%)」が最も多く、次いで「年間(17.8%)」「半年(11.2%)」となっている。外食・給食と惣菜・弁当はいずれも「月」がそれぞれ 36.7%、41.2%と最も多くなっている。

図 4-7 牛肉の仕入価格の適用期間

国産牛肉 単位:%



輸入牛肉

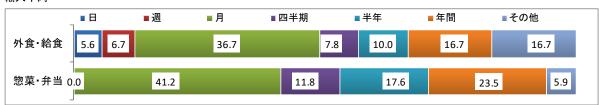


表 4-7 牛肉の仕入価格の適用期間

		回答数	= 	日	週	月	四半期	半年	年間	その他
		社	%	%	%	%	%	%	%	%
国産	牛肉	107	100.0	14.0	7.5	28.0	7.5	10.3	16.8	15.9
	外食・給食	96	100.0	15.6	8.3	25.0	8.3	9.4	16.7	16.7
	惣菜•弁当	11	100.0	0.0	0.0	54.5	0.0	18.2	18.2	9.1
輸入	牛肉	107	100.0	4.7	5.6	37.4	8.4	11.2	17.8	15.0
	外食・給食	90	100.0	5.6	6.7	36.7	7.8	10.0	16.7	16.7
	惣菜•弁当	17	100.0	0.0	0.0	41.2	11.8	17.6	23.5	5.9

2 豚肉の仕入実態

(1) 豚肉の仕入先

国産豚肉、輸入豚肉の仕入先は概して、「中小食肉卸」の回答数が多く、次いで「大手食肉卸」 となっている。一方、外食・給食の輸入豚肉は「大手食肉卸」、「中小食肉卸」の順となっている。 前回(5年前)と比べ大きな変化はない。

□ 国産豚肉

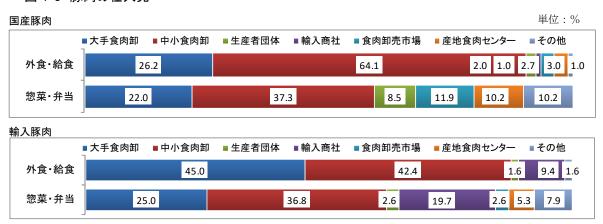
外食・給食における国産豚肉の仕入先は「中小食肉卸(64.1%)」が6割以上を占め、次いで「大手食肉卸(26.2%)」が多くなっている。惣菜・弁当は「中小食肉卸(37.3%)」が多く、次いで「大手食肉卸(22.0%)」、「卸売市場(11.9%)」となっている。

□ 輸入豚肉

外食・給食における輸入豚肉の仕入先は「大手食肉卸(45.0%)」、「中小食肉卸(42.4%)」と 拮抗している。外食チェーンや焼肉チェーンは「大手食肉卸」が多く、焼肉店や飲食店では「中 小食肉卸」が多くなる傾向にあると考えられる。

惣菜・弁当は「中小食肉卸(36.8%)」、「大手食肉卸(25.0%)」、「輸入商社(19.7%)」の順となっている。

図 4-8 豚肉の仕入先



注: 仕入数量が多い順に1位が3点、2位が2点、3位が1点として集計した。

表 4-8 豚肉の仕入先

		回答数	計	大手食肉卸	中小 食肉卸	生産者団体	輸入商社	食肉卸売市場	産地食ンター	その他
		社	%	%	%	%	%	%	%	%
国産	 豚 肉	101	100.0	25.6	59.7	3.1	0.8	4.2	4.2	2.5
	外食·給食	86	100.0	26.2	64.1	2.0	1.0	2.7	3.0	1.0
	惣菜•弁当	15	100.0	22.0	37.3	8.5	0.0	11.9	10.2	10.2
輸入		71	100.0	39.3	40.8	1.9	12.4	0.7	1.5	3.4
	外食·給食	53	100.0	45.0	42.4	1.6	9.4	0.0	0.0	1.6
	惣菜•弁当	18	100.0	25.0	36.8	2.6	19.7	2.6	5.3	7.9

注:仕入数量が多い順に1位が3点、2位が2点、3位が1点として集計した。

(2) 豚肉の仕入割合

豚肉の国産輸入別仕入割合は、外食・給食は国産豚肉が多く、惣菜・弁当は国産豚肉が少ない ことが特徴である。

□ 外食・給食

外食・給食では「国産 (69.6%)」が約7割、「輸入フローズン (21.1%)」が約2割で併せて9割を占めている。また、前回 (5年前) と比べて、「国産」が11%から大幅に増加している。

□ 惣菜・弁当

惣菜・弁当では「輸入フローズン (71.0%)」が全体の7割を超えており、「国産豚肉 (15.1%)」は2割に満たない程度となっている。また、前回 (5年前)と比べて、「国産」及び「輸入フローズン」が減少し、「輸入チルド」が増加している。

図 4-9 豚肉の仕入割合

単位:%



表 4-9 豚肉の仕入割合

		回答数	一社当たり 仕入量	計	国産	輸入 チルド	輸入 フロース・ン
		社	トン	%	%	%	%
豚	肉	133	183.6	100.0	32.1	12.4	55.5
	外食•給食	111	68.6	100.0	69.6	9.3	21.1
	惣菜•弁当	22	763.7	100.0	15.1	13.9	71.0

(3) 豚肉の仕入形態

外食・給食や惣菜・弁当における豚肉の仕入形態は、国産豚肉、輸入豚肉ともに総じて「部分肉パーツ」が多い。また、外食・給食及び惣菜・弁当は「精肉」の仕入れが多いことがわかる。なお、前回(5年前)と比べて、同様な結果となっている。

□ 国産豚肉

国産豚肉の仕入形態は、外食・給食では「部分肉パーツ (74.0%)」が 7割を超えており、次いで「精肉 (20.4%)」が多く、「部分肉フルセット (2.4%)」は少ない。惣菜・弁当でも「部分肉パーツ (50.0%)」が半数を占めており、「精肉 (45.8%)」も拮抗している。

□ 輸入豚肉

輸入豚肉は、原産国からの流通形態が部分肉であり、「部分肉パーツ(66.9%)」が主体となっている。外食・給食では「部分肉パーツ(70.0%)」が全体の7割、「精肉(29.2%)」が約3割となっている。惣菜・弁当では「部分肉パーツ(57.5%)」が5割以上、「精肉(42.5%)」が4割以上となっており、「精肉」の仕入れが多く、特にチルドよりもフローズンが顕著である。

図 4-10 豚肉の仕入形態



注: 仕入数量が多い順に1位が3点、2位が2点、3位が1点として集計した。

表 4-10 豚肉の仕入形態

		回答数	計	枝肉	部分肉 フルセット	部分肉 パーツ	精肉
		社	%	%	%	%	%
国産		101	100.0	2.7	2.7	70.6	24.0
	外食·給食	86	100.0	3.1	2.4	74.0	20.4
	惣菜•弁当	15	100.0	0.0	4.2	50.0	45.8
輸入		79	100.0	0.0	0.6	66.9	32.5
	外食·給食	58	100.0	0.0	0.8	70.0	29.2
	惣菜·弁当	21	100.0	0.0	0.0	57.5	42.5
輸力	(豚肉チルド	70	100.0	0.0	0.0	70.9	29.1
	外食·給食	52	100.0	0.0	0.0	73.9	26.1
	惣菜·弁当	18	100.0	0.0	0.0	62.1	37.9
輸力	- 人豚肉フローズン	77	100.0	0.0	0.0	53.2	46.8
	外食·給食	57	100.0	0.0	1.5	66.5	32.0
	惣菜•弁当	20	100.0	0.0	0.0	53.2	46.8

注: 仕入数量が多い順に1位が3点、2位が2点、3位が1点として集計した。

(4) 豚肉の仕入時の整形状態

国産豚肉の仕入時の整形状態は、一般的に「ノーマル規格(46.0%)」と「小割規格(48.0%)」があり、「小割規格」は需要者の規格も多いことから部位数や整形の仕様が多様となっている。近年、特に外食・惣菜向けの「小割規格」の割合が高く、精肉加工の簡便化志向が顕著となっていることから、小割規格が増加している。

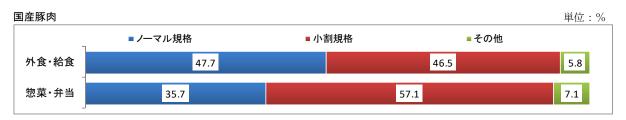
□ 国産豚肉

国産豚肉の仕入時の整形状態は、「小割規格(48.0%)」が「ノーマル規格(46.0%)」と拮抗している。特に惣菜・弁当では「小割規格(57.1%)」が高くなっている。

□ 輸入豚肉

輸入豚肉の仕入時の整形状態は、「小割規格」であり、「パッカー規格(53.2%)」が多い。ただし、「小割規格(自社等の規格)(36.7%)」には需要者の仕様にもとづき、整形加工が行われているものが含まれている。

図 4-11 豚肉の仕入時の整形状態



輸入豚肉

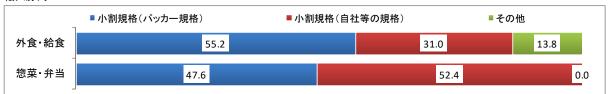


表 4-11 豚肉の仕入時の整形状態

	回答数	計	ノーマル規格	小割規格	その他
	社	%	%	%	%
国産豚肉	100	100.0	46.0	48.0	6.0
外食•給食	86	100.0	47.7	46.5	5.8
惣菜•弁当	14	100.0	35.7	57.1	7.1
	回答数	計	小割規格 (パッカー規格)	小割規格 (自社等 の規格)	その他
	社	%	%	%	%
輸入豚肉	79	100.0	53.2	36.7	10.1
外食·給食	58	100.0	55.2	31.0	13.8
惣菜•弁当	21	100.0	47.6	52.4	0.0

(5) 豚肉の仕入価格の決め方

豚肉の仕入価格は、仕入先からの見積もりをベースとして、相対交渉で決められることが多い。 「相対交渉」と「見積合わせ」の定義区分は回答者の判断によるものである。全体的には「見積 合わせ」が多くなっている。

□ 国産豚肉

国産豚肉の仕入価格の決定方法は、「見積合わせ(54.5%)」が「相対交渉(40.6%)」を上回っている。外食・給食と惣菜・弁当では「見積合わせ」がそれぞれ55.8%、46.7%と多くなっている。

□ 輸入豚肉

輸入豚肉は、一般的に原産国パッカーのオファーがベースとなっている。仕入価格決定方法は、「見積合わせ」が 64.6%となっている。外食・給食と惣菜・弁当では「見積合わせ」がそれぞれ 64.5%、65.0%と多くなっている。

図 4-12 豚肉の仕入価格の決め方







表 4-12 豚肉の仕入価格の決め方

		回答数	計	入札	見積合わせ	相対交渉
		社	%	%	%	%
玉	産豚肉	101	100.0	5.0	54.5	40.6
	外食·給食	86	100.0	2.3	55.8	41.9
	惣菜•弁当	15	100.0	20.0	46.7	33.3
輸	入豚肉	82	100.0	8.5	64.6	26.8
	外食•給食	62	100.0	6.5	64.5	29.0
	惣菜•弁当	20	100.0	15.0	65.0	20.0

(6) 豚肉の仕入価格決定の際の参考指標

□ 国産豚肉

国産豚肉の仕入形態は、部分肉パーツが主体となっているが、その価格交渉の際の参考指標については、「JMTC の部分肉価格(28.7%)」が最も多く、次いで「枝肉取引価格(23.8%)」となっている。

□ 輸入豚肉

輸入豚肉の仕入形態は、部分肉パーツが主体となっているが、仕入価格決定の際の参考指標については、「JMTC 部分肉価格 (29.3%)」、「コスト積み上げ (28.0%)」となっている。

図 4-13 豚肉の仕入価格決定の際の参考指標



輸入豚肉

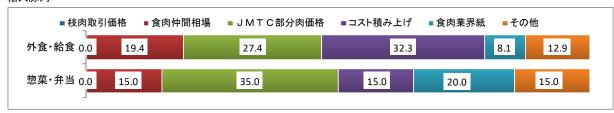


表 4-13 豚肉の仕入価格決定の際の参考指標

		回答数	計	枝肉取引 価格	食肉仲間 相場	JMTC 部分肉 価格	コスト積み上げ	食肉業界紙	その他
		社	%	%	%	%	%	%	%
国産豚肉		101	100.0	23.8	17.8	28.7	6.9	10.9	11.9
	外食·給食	86	100.0	25.6	18.6	27.9	8.1	8.1	11.6
	惣菜•弁当	15	100.0	13.3	13.3	33.3	0.0	26.7	13.3
輸入豚肉		82	100.0	0.0	18.3	29.3	28.0	11.0	13.4
	外食·給食	62	100.0	0.0	19.4	27.4	32.3	8.1	12.9
	惣菜•弁当	20	100.0	0.0	15.0	35.0	15.0	20.0	15.0

(7) 国産豚肉の仕入価格の適用期間

前回調査と比べ、国産豚肉及び輸入豚肉の適用期間が長期化している。

□ 国産豚肉

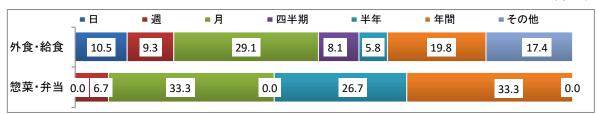
国産豚肉の仕入価格の適用期間は「月(29.7%)」が最も多く、次いで「年間(21.8%)」となっている。惣菜・弁当では「月(33.3%)」、「年間(33.3%)」がともに最も多く、次いで「半年(26.7%)」となっている。なお、外食・給食では「その他」が多くなっているが、「不定期」、「取引先次第」などとなっている。

□ 輸入豚肉

輸入豚肉の仕入価格の適用期間は、「月 (37.3%)」が最も多く、次いで「年間 (22.9%)」、「半年 (13.3%)」の順となっている。国産豚肉と比較するとその適用期間は長くなっている。惣菜・ 弁当では「月 (40.0%)」、「年間 (25.0%)」、「半年 (20.0%)」の順となっている。

図 4-14 豚肉の仕入価格の適用期間

国産豚肉 単位:%



輸入豚肉

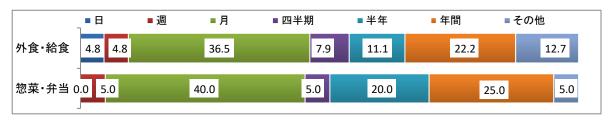


表 4-14 豚肉の仕入価格の適用期間

		回答数	計	日	週	月	四半期	半年	年間	その他
		社	%	%	%	%	%	%	%	%
国産	国産豚肉		100.0	8.9	8.9	29.7	6.9	8.9	21.8	14.9
	外食・給食	86	100.0	10.5	9.3	29.1	8.1	5.8	19.8	17.4
	惣菜•弁当	15	100.0	0.0	6.7	33.3	0.0	26.7	33.3	0.0
輸入豚肉		83	100.0	3.6	4.8	37.3	7.2	13.3	22.9	10.8
	外食•給食	63	100.0	4.8	4.8	36.5	7.9	11.1	22.2	12.7
	惣菜•弁当	20	100.0	0.0	5.0	40.0	5.0	20.0	25.0	5.0

3 外食・惣菜における食肉の需要見通し等

(1) 外食・給食及び惣菜・弁当における自社の食肉需要見通し(今後5年間)

外食・給食及び惣菜・弁当からみた今後 5 年間の自社の食肉の需要見通しについてみると、総じて「変えない」が多い中、国産・輸入の牛・豚肉とも「増やす」が「減らす」を上回る見通しとなっている。やや輸入食肉の増やす割合の方が国産食肉より多い。

□ 国産牛肉

国産牛肉の需要見通しは、「増やす(26.8%)」が「減らす(7.1%)」を上回っており、全体として増加する見通しとなっている。

□ 輸入牛肉

輸入牛肉は、「増やす (29.6%)」が「減らす (4.3%)」を上回っており、全体として増加する見通しとなっている。

□ 国産豚肉

国産豚肉は、「増やす(18.0%)」が「減らす(8.0%)」を上回っており、全体として増加する見通しとなっている。

□ 輸入豚肉

輸入豚肉は、「増やす(22.2%)」が「減らす(7.8%)」を上回っており、全体として増加する 見通しとなっている。

図 4-15 自社の食肉需要見通し(今後 5年間)

単位:%

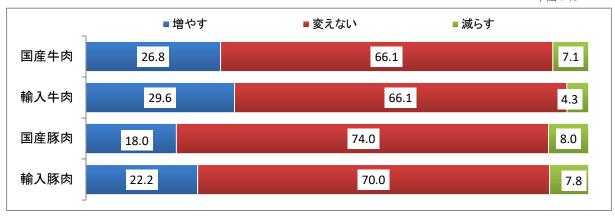


表 4-15 自社の食肉需要見通し(今後 5 年間)

	回答数	計	増やす	変えない	減らす
	社	%	%	%	%
国産牛肉	112	100.0	26.8	66.1	7.1
外食·給食	98	100.0	29.6	65.3	5.1
惣菜·弁当	14	100.0	7.1	71.4	21.4
輸入牛肉	115	100.0	29.6	66.1	4.3
外食·給食	97	100.0	26.8	69.1	4.1
惣菜•弁当	18	100.0	44.4	50.0	5.6
国産豚肉	100	100.0	18.0	74.0	8.0
外食·給食	84	100.0	20.2	72.6	7.1
惣菜·弁当	16	100.0	6.3	81.3	12.5
輸入豚肉	90	100.0	22.2	70.0	7.8
外食·給食	70	100.0	24.3	68.6	7.1
惣菜•弁当	20	100.0	15.0	75.0	10.0

(2) 国内の食肉需要見通し(今後5年間)

外食・給食及び惣菜・弁当からみた今後 5 年間の食肉の需要見通しについてみると、国産牛・ 豚肉は総じて「減る」が「増える」を上回っている。一方、輸入牛・豚肉は「増える」が「減る」 を大幅に上回る見通しとなっている。

食肉加工品・惣菜の需要見通しについてみると、家庭における調理機会の減少及び中食・外食の需要拡大予想等から、「増える」が「減る」を大幅に上回る見通しとなっている。

□ 国産牛肉

国産牛肉の需要見通しは、「減る(36.3%)」が「増える(23.9%)」を上回っており、全体として減少する見通しとなっている。

□ 輸入牛肉

輸入牛肉は、「増える (61.1%)」が 6 割を超えており、全体として増加する見通しとなっている。

□ 国産豚肉

国産豚肉は、「減る(27.6%)」が3割近くで、全体として減少する見通しとなっている。

□ 輸入豚肉

輸入豚肉は、「増える(41.6%)」が半数近くとなっており、全体として増加する見通しとなっている。

□ 食肉加工品

食肉加工品は、「増える(55.0%)」が半数を超えており、全体として増加する見通しとなっている。

□ 食肉惣菜

食肉惣菜は、「増える(54.6%)」が半数を超えており、全体として増加する見通しとなっている。

図 4-16 国内の食肉需要見通し(今後5年間)

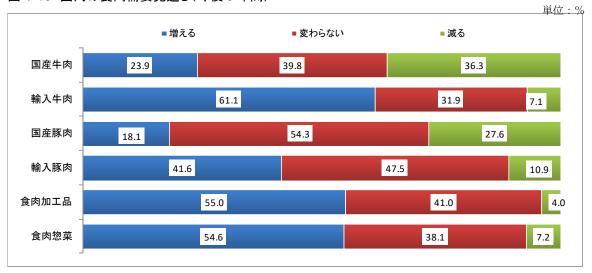


表 4-16 国内の食肉需要見通し(今後 5 年間)

衣 4-10 国内の長内需要見通し(与 後 5 平间)									
	回答数	計	増える	変わらない	減る				
	社	%	%	%	%				
国産牛肉	113	100.0	23.9	39.8	36.3				
外食·給食	99	100.0	26.3	37.4	36.4				
惣菜•弁当	14	100.0	7.1	57.1	35.7				
輸入牛肉	113	100.0	61.1	31.9	7.1				
外食·給食	95	100.0	61.1	32.6	6.3				
惣菜•弁当	18	100.0	61.1	27.8	11.1				
国産豚肉	105	100.0	18.1	54.3	27.6				
外食·給食	89	100.0	19.1	56.2	24.7				
惣菜・弁当	16	100.0	12.5	43.8	43.8				
輸入豚肉	101	100.0	41.6	47.5	10.9				
外食·給食	83	100.0	45.8	47.0	7.2				
惣菜•弁当	18	100.0	22.2	50.0	27.8				
食肉加工品	100	100.0	55.0	41.0	4.0				
外食·給食	82	100.0	54.9	42.7	2.4				
惣菜•弁当	18	100.0	55.6	33.3	11.1				
食肉惣菜	97	100.0	54.6	38.1	7.2				
外食·給食	79	100.0	54.4	39.2	6.3				
惣菜•弁当	18	100.0	55.6	33.3	11.1				

(3)食肉の調達上の問題点

食肉の調達上の問題点は、「価格の高さ (74.2%)」、「価格変動 (41.1%)」、「数量の安定確保 (34.7%)」が上位 3 つとしてあげられている。また、価格や需給の要因が「衛生管理 (8.9%)」や「特徴・こだわり等商品力 (5.6%)」を大きく上回っている。なお、前回調査においても同様の結果となっている。

図 4-17 食肉調達上の問題点

 外食・給食
 単位:%
 惣菜・弁当

 価格の高さ 価格変動
 40.6

 数量の安定確保 衛生管理
 35.8

 特徴・こだわり等商品力 肉のきめしまり
 6.6

 その他
 4.7

惣菜·弁当 単位:% 価格の高さ 価格変動 数量の安定確保 衛生管理 16.7 その他 11.1

注:複数回答

表 4-17 食肉調達上の問題点

		回答数	価格の高さ	価格変 動	数量の 安定確 保	衛生管理	肉色	肉のきめ しまり	特徴・ こだわり 等商品 力	その他
		社	%	%	%	%	%	%	%	%
計		124	74.2	41.1	34.7	8.9	0.0	4.8	5.6	5.6
	外食·給食	106	75.5	40.6	35.8	7.5	0.0	5.7	6.6	4.7
	惣菜•弁当	18	66.7	44.4	27.8	16.7	0.0	0.0	0.0	11.1

注:複数回答